

CAUA 第10回合同研究分科会 分科会セッション講評

坂下 善彦

湘南工科大学工学部・教授、CAUA 運営委員

2011年の合同研究分科会のテーマは「アカデミック・クラウドは次のステップへ」で、先進大学から事例を中心にその導入成果と課題を報告していただき、討議する分科会セッションとなりました。

1件目は、教育研究分科会から駒澤大学総合情報センターの三浦謙一氏から「携帯・スマホでMoodleを使う」と題したご講演をいただきました。

既設の授業支援システム Moodle の実績を生かして、学生のモバイル端末と連携したサービスを提供し、教員側に授業改革を推進するユーザ会が設けられ、その推進体制も整い、大学構内はもとより自宅からも利用できる、授業支援型のサービスシステムが紹介されました。出欠、課題提示と回収、小テスト、教材の閲覧、フォーラム、そしてスケジュール管理と多彩です。学生の視点に立ったサービスと言えます。

フロアからの質問も多く、大変有意義で参考になるご講演でした。

2件目は、センター運用分科会から伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の横掘雅人氏から「CTC データセンターネットワークの構築と運用管理について」と題したご講演をいただきました。

データセンターの発展が起点となるシステムネットワークの再構築が焦点でした。それまでの企業活動を推進してきた情報処理システムに強く関係するネットワークは、組織や業務形態の変化と相互に良い環境にあることが望まれますが、随時適応的に対応できることは稀でしょう。他方で、IPv6 対応という悩ましい実情も大きく影響します。このような状況は、規模の違いはありますが大学の中でも存在し、大きな課題となっています。特に、汎用 L2 ネットワークに焦点を当てた話があり、ネットワークの仮想化技術が進んでいる現在、ネットワークのトポロジーと組織活動との関連で、大きな課題を抱えていることがよく分かりました。

最後に、国立情報学研究所の教授中村素典先生から「キャンパスネットワークの IPv6 移行の留意点」と題した特別講演をいただきました。

導入に関するポイントを分かりやすく説明いただきました。対外ルータ、ファイアウォール、アドレスの自動割り当て、等が当面の大きな課題の焦点ということが指摘されました。具体的には、大学間認証連携基盤と連携した研究教育のための学術無線ローミング、あるいは SINET との連携の実績を踏まえた、具体的な例を用いたとても参考になる内容が紹介されました。

以上3件の講演は、ネットワークシステムが担っている基盤技術からシステム運用に至るまで、極めて重要な技術であることを改めて認識する内容でした。

「IPv6の世界はすぐそこまで迫っている」と講演の中にありました。このような状況を踏まえ、早晚同じような状況に大学のシステムの多くが遭遇すると考えますと、色々な観点から参考になることを多く伺うことが出来ました。今後に向けて、一層の検討と研究が要ることも痛感いたしました。